

12/15 京都集会に
参 加を

京都市民の皆さん

日本原子力発電敦賀原発の放射能たれ流し事故が発覚してからはや七ヶ月が過ぎました。日本原電は十二月十七日の操業停止処分解除に伴い、直ちに、試運転に入り、本格稼動を行わんとしています。あれほどまで、新聞紙上、テレビをこぎわせた事務も、今では私達の目から離れ、うきむやのうちに忘れさせられました。

一般排水路が放射能の捨て場として常態化していたこと。今回の事故のみならず事故が日常化していたこと。放射能で漁獲物が完全に汚染されていたこと。安全管理にマヒした内部の機械などのひとつひとつが遠い過去のものとなりつつあります。

しかし現地では波濤を余儀なくされた下請労働者、子供たちの将来に不安をもつ母親、漁業の信行も不安をいたく漁民らの苦悩する姿を見ることがあります。

△操業停止処分では事故は解決しない

事故の責任者、日本原電、通産省は今まで「単なる人為ミス、技術ミス」とし責任軽減し、役員のすえかえと六ヶ月の処理停止処分で、事故の幕引をはかつてきました。これだけで、本当に根本的な解決策がほどこされたのでしょうか。否。

事故の原因である「原子炉本体には一切あれず、かつ未だに小さな管理体制を放置しています。放射能による海の汚染は金の問題にすりかえようとしています。日本原電、通産省が「廃棄物処理建屋を改善」、「別途マンホールを新設」等々としたかも万全な体制を確保したかのことく述べるにつれ、強い怒りをもたざるをえません。

(ウラベ)

その一方で、一号炉の事故が解決していないにもかかわらず、二号炉の安全認可が十月二九日に行われています。

△敦賀原発運転再開を許すなー！

私は敦賀原発事故を通して、「原発の安全性」は全くの神話にすぎず、原発が多くの被曝労働者を生みだし、地域住民の生活を破壊し、生態系、環境を脅やかしつづける代物であることを事実をもって知りました。

もう原発を認めるることはできません。敦賀原発の運転再開を許すことにはなりません。私達のために、未來の子供たちのために、現地住民と手をとりあい、闘いを進めよう！多くの皆さんのが集金への参加を呼びかけます。

敦賀原発運転再開を許すな！京都集会
日時十二月十五日（火）午後六時三十分
場所YWCAホール（塩町出水下ル）

御前

報告・福井県許昌昌裕

・今中 哲二氏

（京大原子炉実験所）

開	閉
丸太通	丸太通
鳥居通	鳥居通
丸太通	丸太通

主催 反原発京都連絡会

連絡先鶴三五二一四六四五平和センターハウス